

中国人日本語学習者の日本語聴解能力（初級）について  
—言語テストデータ分析に基づいて—

許 羅 莎

要 約

中国学生的日语听力（初级）问题  
——基于语言测试数据分析——

許 羅莎

本文讨论的是：如何解决中国学生初级阶段的日语“听力难”问题。我们于2000年6月在中国广东外语外贸大学日语系99级（当时的一年级）113名学生中作了多次听力普查试验，试图通过测试数据分析弄清这批学生，在基本完成一学年学习任务时日语听力（即辨意能力）达到什么水准，欠缺哪些能力。分析结果表明以下几方面是中国学生的薄弱环节：日语简体表达方式；日语中感觉・感情词汇受人称制约一点；「連語」复原；与时间相关的表达方式；信息捕捉能力等。

## 1. 問題提起

日本国際交流基金・財団法人日本国際教育協会主催の外国人「日本語能力試験」は1984年から毎年一回世界39カ国及び地域（日本を含む）の100の都市で同時に行なわれ、平成14年（2002）度現在約286,000名の応募者がある大規模な試験である。外国人「日本語能力試験」は、「聴解」「文字・語彙」「文法・読解」の3種のテストで構成され、漢字、語彙量、学習時間により1級（高）から4級（低）の4つのレベルに分けられている<sup>（注1）</sup>。現在では全問、すべて四肢選択形式とした客観的テスト形式である。

日本国際交流基金の統計によると、「文字・語彙」「文法・読解」の合格率は欧米人受験者より中国人受験者の方が高く、「聴解」の合格率は欧米人受験者より中国人受験者の方が低い。要するに、中国人日本語学習者の困難点はリスニングにある。一体、中国人初級日本語学習者が聴解における問題点はどこにあるか本稿で検討する。

## 2. 研究の目的及び方法

### ●テストの目的

本稿で分析するテストは、語学科目として日本語を履修した中国の大学1年生が1学年の授業がほぼ終わった時点に、日本語聴解能力についてどのような力を持っていて、どのような力を持っていないかに焦点をあてる、いわゆる診断テスト（diagnostic test）である。使用したテストは日本国際交流基金・財団法人日本国際教育協会主催の「平成10年（1998）度 日本語能力試験・聴解3級」のテスト（以下Test-98聴解3とする）」で、収集する回答は1—0データとする。

Test-98聴解3の第一の目的としては、診断的な情報について注目し、今後、大学一年の日本語の授業計画を必要に応じて変更し、軌道修正をすることとし、Test-98聴解3の第二の目的としては、日本語専攻の学生が大学二年に受ける聴解授業の計画作成に役立てることとする。

### ●テストの実施

受験者は中国広東外語外貿大学1999年9月に入学した日本語専攻の大学一年生113名、うち111名は、入学の時点で日本語学習歴は0であって、2名は中、高等学校で6年間の日本語学習歴があった<sup>（注2）</sup>。同大学では、日本語の授業は週12時間、その内訳は精読<sup>（注3）</sup>10時間、会話2時間であった。テストを実施したのは、2000年6月下旬、当時受験者の日本語習得時間は約350時間。使用したTest-98聴解3は、当時中国では市販のものはなかったので、受験者はTest-98聴解3を受験する前に聞いたりした可能性はほとんどなく、試験内容については、未知であると推測される。

### ●テスト・ポイント

Test-98聴解3は絵のあるものと絵のないものに分かれ、各問題項目は、男女二人の日常会話のやり取りで構成され、それを一度聞いて、その意味を把握することができるかどうかを測定する。絵のあるもの14項目、答えとなる選択肢はそれぞれ4つの絵を印刷し与え、絵のないもの11項目、答えとなる選択肢はそれぞれ4つ、全部音声のみで与え、正しいものを1つ選ぶ形式を使用する。テスト時間は35分。提示方法は、教室において、ラジカセのスピーカから聞かせる方法とする。

### ●テストデータの分析

上記の目的のために、Test-98聴解3によって収集したデータについて、標準基準準拠テストとしての特性を中心に、古典的テスト理論を用い、項目困難度、上位下位項目弁別力指数、実質選択肢数の3点について、テストの目的と照らし合わせ、いくつかのデータを関連させながら、受験者の特性やテスト項目の特性を総合的に検討し、データ分析を行なうこととする。

なお、項目困難度、上位下位項目弁別力指数、実質選択肢数といった数値には、中国広東外語外貿大学1999年9月に入学した受験者グループに固有の値であり、受験者グループが異なると、違う値となるものであるため、一般化されないよう気をつけてほしい。

## 3. 項目分析

テストデータ全体から見て、Test-98聴解3における受験者特性は次のようである。

### ●「絵のないもの」の方が難しかった

Test-98聴解3は、Ⅰ絵のあるもの14項目と、Ⅱ絵のないもの11項目で構成され、各問題項目は、男女二人の日常会話を一度聞いて、その意味を把握することができるかどうかを測定する。「絵のあるもの」の場合、答えとなる選択肢はそれぞれ4つの絵を印刷し与え、「絵のないもの」の場合、答えとなる選択肢はそれぞれ4つ、音声のみで与え、正しいものを1つ選ぶ形式を使用する。テスト時間は35分。

Ⅰの14項目について項目困難度（＝正答率）<sup>(注4)</sup>の平均は0.592であり、Ⅱの11項目の項目困難度の平均は0.512であり、Test-98聴解3全体の項目困難度の平均値は0.557である（表1参照）。平均して受験者の50%程度が正答することができ、全体から見て、「絵のあるもの」より、「絵のないもの」の方が難しかったことが分かる。

### ●受験者は常体が苦手

日本語には敬体（です・ます体）と、常体（だ体、である体）との区別がある。同じセンテンスでは、敬体でも常体でも表現でき、意味上の違いは伴わない。これは日本語の特徴の1つでもある。日本語能力試験の聴解試験にはこういった点も十分反映されている（表1参照）。

Test-98聴解3-Ⅰの14項目のうち、敬体形式が使われたのは10項目、常体は4項目、14項目の項目困難度は0.592（＝正答率59.2%）で、正答率50%以上の9つの項目のうち常体の文

は1問（Ⅰ－3 常体）だけである、また、Test－98聴解3－Ⅱの11項目のうち、敬体の文は5項目、常体の文は6項目あり、11項目の項目困難度は0.512（＝正答率51.2％）で、正答率50％以上の6つの項目の問題文のうち、常体の文は2問だけであった（Ⅱ－6 常体、Ⅱ－5 常体）。

受験者は受験するまで使った教科書のほとんどは敬体形式のもので、常体が苦手だという実態は Test－98聴解3 のテストデータに反映されている。

【表1】

平成10年度（1998） 日本語能力試験 聴解3級 （全25項目）							
Ⅰ 絵のあるもの14項目				Ⅱ 絵のないもの11項目			
敬体	常体	項目 困難度	項目弁別 力指数	敬体	常体	項目 困難度	項目弁別 力指数
Ⅰ－8		0.398	0.167		Ⅱ－7	0.133	0.167
Ⅰ－11		0.416	0.067		Ⅱ－9	0.221	0.167
	Ⅰ－6	0.451	0.433		Ⅱ－8	0.336	0.333
Ⅰ－1		0.469	0.567		Ⅱ－10	0.416	0.433
	Ⅰ－9	0.487	0.500	Ⅱ－3		0.478	0.433
Ⅰ－7		0.522	0.300	Ⅱ－1		0.540	0.333
	Ⅰ－3	0.549	0.400		Ⅱ－6	0.566	0.233
Ⅰ－13		0.575	0.133	Ⅱ－11		0.664	0.367
Ⅰ－14		0.584	0.433		Ⅱ－5	0.735	0.367
Ⅰ－4		0.646	0.433	Ⅱ－2		0.761	0.233
Ⅰ－5		0.735	0.200	Ⅱ－4		0.777	0.267
Ⅰ－12		0.761	0.300				
Ⅰ－2		0.832	0.233				
Ⅰ－10		0.867	0.267				
14項目平均値		0.592	0.329	11項目平均値		0.512	0.301
				全項目平均値		0.557	0.310

### ●項目困難度と項目弁別力指数<sup>(注5)</sup>

目標基準準拠テストにおいては、項目弁別力指数の高低が、必ずしも一義的な意味を持つわけではない<sup>(注6)</sup>。表1を見て分かるように、項目Ⅰ－13を除いて、Test－98聴解3の項目弁別力指数の低い項目は両極端に分かれる。

正答率の高いⅠ－10、Ⅰ－2、Ⅱ－4、Ⅱ－2の場合、受験者の多くが到達目標を達成しているために、項目の弁別力指数が低かった。極端な場合、受験者全員が到達目標に達しており、全員正解する項目などでは、項目弁別力指数は0.000となることもあり得る。従って、項目弁別力指数が低い場合、必ずしも、その項目に何らかの欠陥があるとは言えない。

一方、Test－98聴解3の正答率の低いⅠ－8、Ⅰ－11、Ⅱ－7、Ⅱ－9の場合、受験者の多くが到達目標を達成しておらず、項目の弁別力も低かった。到達度をテストするという目的からすれば、能力の高い受験者も低い受験者も、この項目については正答できなく、この受験者グループでは、この項目のポイントについては、まだ定着していないといった推測が可能となる。

本稿では、項目困難度0.500（＝正答率50％）以下の項目（表1 網掛け）について、その原

因・理由が受験者の特性にあるのか、または項目の特性にあるのか、項目弁別力とあわせて、回答状況などを検討し、受験者の困難点などの特性を明らかにしたい。

#### 4. 解答パターン分析

##### ●項目 I-11

項目 I-11は絵のあるもので、女の人が部屋に泥棒に入られ、警察が現場検証をしている場で、男女二人の会話はともに「です・ます体」を使っている。項目困難度は0.416、上位下位項目弁別力指数は0.067である。表2項目 I-11で、各選択肢の選び方を見ると、誤答3.「窓が閉まっていて、引出しが開いて、本棚の前に本が散乱している」を選んだ者が51名、正答4.「窓も引出しも開いて、本棚の前に本が散乱している」を選んだ47名を上回った。

更に正答者を絞って見ていくと、上位群30名のうち13名が正答し、正答率43.3%、中位群53名のうち23名が正答し、正答率は43.4%、下位群30名のうち11名が正答し、正答率は36.7%と、上位群と下位群の差は6.7%しかなく、中位群は上位群を0.1%も上回ったことから、かなり問題のある項目だと言わざるを得ない。一体どこに問題があるのか、見てみよう。

問題文にある他動詞・自動詞のペア及びその反対語の

～を閉める ⇔ ～が閉まっている



～を開ける ⇔ ～が開いている

といった語彙については、理解が浸透しているようだが、ポイントとなるものは次の2点。

##### 1) 言語内知識によるもの

「寒かったので、私が閉めました」

男女会話のやり取りは五回行なわれた。四回目の男性の質問「あなたが帰ってきた時、窓は閉まっていたんですか」に対し、「寒かったので、私が閉めました」といった女性の答えに、もし「いいえ」という語を入れたら、正答率は確実に高くなるだろう。しかし、「いいえ」がないからこそ、項目としても価値がある。

受験者は「私が閉めました」という言葉に気を取られ、閉めた時間を無視した可能性と、「寒かったので」といった語彙については、理解は浸透していない可能性との両方が考えられる。

日本語の「寒い」、「うれしい」のような感覚・感情形容詞は、一人称の感じしか表わせないので、文中一々出ないのは一般的である。中国語では、主語となる人称代名詞の省略は原則として認められないので、全体群はこういった表現に引かれたと考えられる。

##### 2) 言語外知識によるもの

「そういうことされるとね、私たちは困るんですよ」

男女会話のやり取りの五回目、男性の「私たちは困るんですよ」という言葉の意味は言語外知識が含まれている。事件や事故の場合、現場検証を行なう前に、ありのままの状態を維持するのは常識である。女性は「寒かった」という理由で現場検証の前に「窓を閉めた」ので、男

の人に怒られたのである。ちなみに、中国語訳は「被你这么搞一下，我们可就难办了。」

項目 I-11は、言語内知識について、「寒い」は初級の学習事項であるにもかかわらず、習得していないことが確かである例、また、言語外知識について、知っておいた方がいい例の1つとしてとらえることができ、以後の授業で補充していくことを取り込んだ授業計画を検討する必要があるだろう。

### 項目 I-11 スクリプト

問題：女の人のお部屋に泥棒が入りました。女の人がこの部屋に帰ってきた時部屋はどうなっていましたか。女の人が帰ってきた時です。

男：お金のほかに何が取られましたか。

女：いいえ、お金だけです。

男：そうですか。お金は引き出しに入れてあったんですね。

女：はい。

男：泥棒は一つ一つ開けて探したんでしょう。開いたままですけど、あなたは触りましたか。

女：いえ、触っていません。

男：あなたが帰ってきた時、窓は閉まっていたんですか。

女：寒かったので、私が閉めました。

男：ええ、困りますね。そういうことされるとね、私たちは困るんですよ。

女：はい、すみません。

質問：女の人が部屋に帰ってきた時、この部屋はどうなっていましたか。

(出された四枚の状態は下記のとおり) [( ) 内は正解]

1. 窓が開いて、引出しが閉まって、本棚の前に本が散乱している。
2. 窓も引出しも閉まっており、本棚の前に本が散乱している。
3. 窓が閉まっていて、引出しが開いて、本棚の前に本が散乱している。
- (4) 窓も引出しも開いていて、本棚の前に本が散乱している。

【表2】 ( ) 内は正解、\*1)項目困難度、\*2)上位下位項目弁別力指数

項目 I-11	無 答 者 数	各肢選択者数				受 験 者 数	1	2	3	* (4)	
		1	2	3	(4)						
上位群27%	0	2	1	14	13	30	0.067	0.033	0.467	0.433	各選択肢 の選択率 <sup>(注7)</sup>
中位群46%	0	0	7	23	23	53	0.000	0.132	0.434	0.434	
下位群27%	0	3	2	14	11	30	0.100	0.067	0.467	0.367	
計	0	5	10	51	47	113	0.044	0.089	0.451	*1)0.416	
							-0.033	-0.033	0.000	*2)0.067	

## ●項目Ⅰ－１

項目Ⅰ－１は絵のあるもので、男女二人の会話は「です・ます体」で行なわれ、言葉づかいがやさしく、学習歴一年の受験者には、文法の面においても、語彙の面においても既習のものと推測される。項目困難度は0.469、表３項目Ⅰ－１で、各選択肢の選び方を見ると、誤答２、「５：００」を選んだ者が48名、正答１、「４：３０」を選んだ者は53名いる。

正答者の上位下位項目弁別力指数は0.567である。上位群30名の受験者のうち21名が正答し、正答率70%、大半は習得しているが、下位群30名のうち４名しか正答しなかったと、かなり定着度が低かった。

### キーワード：「～までに」

項目Ⅰ－１は、今日は何時まで本を借りることができるかという質問である。正答に繋がる重要な要素は次の２点、

男女二人の会話のやり取りの１回目：

女：今日は日曜日ですから、五時までです。（閉まる）

男女二人の会話のやり取りの３回目：

女：本を借りるのは閉まる30分前までにお願いします。

受験者が受験当時、「まで」も「までに」も既習し、「今日は日曜日ですから、五時までです」ということまで理解しているが、問題のポイントの「本を借りるのは閉まる30分前までに」についての定着が不足しており、２、「５：００」を多く選んだ可能性を示唆している。また、「までに」を「まで」と同一視する傾向があるようである。

ちなみに、「本を借りるのは閉まる30分前までに」の中国語訳は、“借书手续请在关门前30分钟办理”。または“离关门还有30分钟起，不办理借书手续，要借书得在那之前”。

時間名詞 ＋「まで」： “到……为止”

時間名詞 ＋「までに」： “在……之前”

### 項目Ⅰ－１スクリプト

問題：男の人が図書館の人と話をしています。今日は何時まで本を借りることができますか。  
今日です。

男：すみません。今日は何時に閉まりますか。

女：今日は日曜日ですから、五時までです。

男：え、早いですね。

女：ええ、でも火曜日から土曜日までは7時まで開いています。

男：閉まる時間まで本を借りられますよね。

女：本を借りるのは閉まる30分前までにお願いします。

質問：今日は何時まで本を借りることができますか。

（出された四枚の状態は下記のとおり）〔（ ）内は正解〕



(1) 4 : 30

2 5 : 00

3 6 : 30

4 7 : 00

【表3】 ( ) の中は正解、\*1)項目困難度、\*2)上位下位項目弁別力指数

項目Ⅰ－１	無 答 者 数	各肢選択者数				受 験 者 数	(１)	２	３	４	
		(１)	２	３	４						
上位群27%	0	21	9	0	0	30	0.700	0.300	0.000	0.000	各選択肢 の選択率
中位群46%	0	28	19	5	1	53	0.528	0.359	0.094	0.019	
下位群27%	0	4	20	5	1	30	0.133	0.667	0.167	0.033	
計	0	53	48	10	2	113	*1)0.469	0.425	0.088	0.018	
							*2)0.567	－0.367	－0.170	－0.030	

### ●項目 I - 6

項目 I - 6 は絵のあるもので、男女二人の会話は常体で行なわれている。項目困難度は 0.451、表 4 項目 I - 6 で、各選択肢の選び方を見ると、誤答 3. 「1 : 30」を選んだ者が 50 名、正答 4. 「1 : 45」を選んだものは 51 名。

正答者の上位下位項目弁別力指数は 0.433 である。上位群 30 名の受験者のうち 22 名が正答し、正答率 73 % と、中位群、下位群の正答率はそれぞれ約 38 % と 30 % と、低い値であった。

### キーワード：

「30分も あいだが あいてる」



「30分も あいだが あいている」

誤答が多かった原因は、「あいだがあいている」というフレーズの理解が浸透していないのではなかろうか。音声の面では、「窓が開いている」と「あいだが空いている」の「あいている」は、一語のように聞こえるが、意味の面では、まったく意味の違う二つの単語になる。受験者は受験当時、「あいだ」「あいている」は「ドアがあいている」「窓があいている」のような連語のみの既習であり、「時間が空いている、間が空いている」のような連語は未習のものである。

### 項目 I - 6 スクリプト

問題：男の人と女の人がバスを待っています。次のバスは 1 時何分ですか。

男：ええと、次のバスは何分だろう。

女：今 1 時 25 分よ。

男：うーん。1 時 15 分の行っちゃったねえ。

女：え、次は

男：ええと、30分もあいだがあいてるよ。

女：そうなの。まあ、仕方がないわねえ。待ちましょう。

男：うん。

質問：次のバスは1時何分ですか。

(出された四枚の状態は下記のとおり) [( ) 内は正解]

1 1 : 15

2 1 : 25

3 1 : 30

(4) 1 : 45

【表4】 ( ) 内は正解、\*1)項目困難度、\*2)上位下位項目弁別力指数

項目 I - 6	無 答 者 数	各肢選択者数				受 験 者 数					
		1	2	3	(4)		1	2	3	(4)	
上位群27%	0	0	0	8	22	30	0.000	0.000	0.267	0.733	各選択肢 の選択率
中位群46%	0	8	0	25	20	53	0.151	0.000	0.472	0.377	
下位群27%	0	2	2	17	9	30	0.067	0.067	0.567	0.300	
計	0	10	2	50	51	113	0.089	0.018	0.442	*1)0.451	
							-0.067	-0.067	-0.300	*2)0.433	

### ●項目 I - 8

項目 I - 8 は絵のあるもので、項目困難度は0.398である。表5 項目 I - 8 で、各選択肢の選び方を見ると、誤答1. 「……体も手足も小さい」を選んだ者が51名、正答3. 「……体と足が小さいけど手が大きい」を選んだ45名を上回った。

男女二人の会話はほとんど「です・ます体」で行なわれているが、肝心な個所はくだけた言い方になってしまい、それに慣れていないのが原因ではなかろうかと推測される。

### キーワード：

「顔や手と比べて足が小さすぎて、倒れちゃいそう。」

↓

「顔や手と比べて足が小さすぎて、倒れてしまいそうです。」

正答者の上位下位項目弁別力指数は0.167。中、下位群では、全選択肢を選んでいる。上、中、下位群ともに正答率は低かった(50%、約38%、33%)。問題文では、文法知識の面での「動詞連用形+て+しまう」、「動詞連用形+そうだ」も、語彙知識の面での「倒れる」も既習であるにもかかわらず、上位群の受験者まで誤答をしたのは「倒れちゃいそう」のくだけた言い方に慣れていないと推測される。

受験者グループの特性に原因があるのは否定できないが、項目特性にも原因があるとも言え

よう。

### 項目Ⅰ－８スクリプト

問題：男の人と女の人が絵の話をしています。どの絵を見て話していますか。

女：この絵、おもしろいですね。

男：ええ、子供が描いた絵です。

女：そうですか。顔が大きいですね。目も大きい。

男：ええ。

女：あれ、鼻がないですね。

男：ええ。

女：それから、顔や手と比べて足が小さすぎて倒れちゃいそう。

男：そうですね。

質問：どの絵を見て話していますか。

(出された四枚の状態は下記のとおり) [( ) 内は正解]

- 1 大きな頭、大きな目、鼻がなく、体も手足も小さい。
- 2 大きな頭、大きな目、鼻があって、体も手足も小さい。
- (3) 大きな頭、大きな目、鼻がなく、体と足が小さいけど手が大きい。
- 4 小さな頭、小さな目、鼻がなく、体が小さいけど手足は大きい。

【表5】 ( ) 内は正解、\*1)項目困難度、\*2)上位下位項目弁別力指数

項目Ⅰ－８	無 答 者 数	各肢選択者数				受 験 者 数					
		1	2	(3)	4		1	2	(3)	4	
上位群27%	0	13	2	15	0	30	0.433	0.067	0.500	0.000	各選択肢 の選択率
中位群46%	0	23	8	20	2	53	0.434	0.151	0.377	0.038	
下位群27%	0	15	3	10	2	30	0.500	0.100	0.333	0.067	
計	0	51	13	45	4	113	0.451	0.115	*1)0.398	0.035	
							-0.067	-0.033	*2)0.167	-0.070	

### ●項目Ⅰ－９

項目Ⅰ－９は絵のあるもので、男の人が命令口調（常体）で指示を出している場面である。項目困難度は0.487、表6項目Ⅰ－９で、各選択肢の選び方を見ると、正答4.「掃除、食事、走る、柔道」を選んだ者は55名、正答率約49%、誤答3.「掃除、食事、柔道、走る」を選んだ者は46名、選択率40%。要するに、約89%の受験者は「朝ご飯の前に掃除」までは理解が浸透しているが、問題のポイントは、「走ってからだ」という表現に対する理解が浸透していないようである。

受験者たちが習った教科書には、ほとんど「30分走ってから練習をする」という「～してから～する」のような表現で、「～してから」は「だ」で文を切るような表現は未習事項で、「練

習は30分走ってからだ。」という表現に戸惑った可能性は高い。

# キーワード：

「……、練習は30分走ってからだ。」

↓

「……、30分走ってから練習をする。」

上位下位項目弁別力指数は0.500で、正答者を絞って見ていくと、上位群30名のうち21名が正答し、正答率70%、中位群53名のうち28名が正答し、正答率52.8%、下位群30名のうち6名が正答し、正答率20%である。

## 項目Ⅰ－9スクリプト

問題：男の人が話しています。明日の午前中はどの順番でしますか。

男1：明日の午前の予定を今から言う。よく聞け

男女：はい。

男1：えー、明日は朝ご飯の前にまず掃除。

男女：えー

男1：食事が終わったら、午前中はずっと柔道の練習をするが、練習は30分走ってからだ。

男女：えー

質問：明日の午前中はどの順番でしますか。

(出された四枚の状態は下記のとおり) [( ) 内は正解]

1 食事、掃除、柔道、走る

2 食事、掃除、走る、柔道

3 掃除、食事、柔道、走る

(4) 掃除、食事、走る、柔道

【表6】 ( ) の中は正解、\*1)項目困難度、\*2)上位下位項目弁別力指数

項目Ⅰ－9	無 答 者 数	各肢選択者数				受 験 者 数					
		1	2	3	(4)		1	2	3	(4)	
上位群27%	0	0	1	8	21	30	0.000	0.033	0.267	0.700	各選択肢 の選択率
中位群46%	0	1	4	20	28	53	0.019	0.075	0.377	0.528	
下位群27%	0	2	4	18	6	30	0.067	0.133	0.600	0.200	
計	0	3	9	46	55	113	0.027	0.080	0.407	*1)0.487	
							－0.070	－0.100	－0.330	*2)0.500	

## ●項目Ⅱ－7

項目Ⅱ－7は絵のないもので、Test－98聴解3の中で正答率の一番低かった項目である。項目困難度は0.133、上位下位項目弁別力指数は0.167、古典的テスト理論によると、よくない項

目である。表7項目Ⅱ－7で、各選択肢の選択状況を見ると、正答1.「経験があつて厳しい先生です」を選んだ者はわずか15名で、全体群及び上、中、下位群では、全選択肢を選んでいる。誤答4.「若くてやさしい先生です」を選んだ者が53名もあった。

項目Ⅱ－7はくだけた言い方で、男女二人の会話のやり取りは三回ぐらい行なわれ、話しの内容はある先生に対する評価、その評価のポイントの出現順から、仕事に対する態度、年齢、仕事歴の3点である。本項目は「厳しい」「やさしい」「若い」「経験がある」の4要素の交差で選択肢が作られている。誤答4.「若くてやさしい先生」はその先生の特徴ではあるが、女の人の好きなタイプの先生ではない。この選択肢は戸惑わせるのに充分である。

### 問題のポイント：

#### 1) 言語内知識

「厳しくしてくれなくちゃ。」



「厳しくする」

↳ 「厳しくして」

↳ 「厳しくしてくれる」

↳ 「厳しくしてくれない」

↳ 「厳しくしてくれなくてはならない」

「厳しくしてくれなくちゃ」は「厳しくしてくれなくてはならない」のくだけた言い方で、構造は複雑である。受験者は受験当為、授受補助動詞の「～てくれる」を既習したにもかかわらず、確実に習得していない可能性と、「厳しくする」「厳しくなる」といった自他動詞の区別についての理解が浸透していない可能性の両方が推測される。

また、「ベテラン」という語は未習のものだが、同じ意味の「何年も教えたことのある」という文型は既習のものである。それを、選択肢では「経験があつて」と類似表現に言い換えられている。

#### 2) 必要となる情報をキャッチする能力

項目Ⅱ－7の特性は、文法の知識、または、語彙の知識を問うものより、リスニングの技能を測定するものだと考えられる。2層構成で、つまり、その先生はどんな先生か、話し手はそれに対してどう思っているかの2層構成である。受験者グループは沢山の情報から必要な情報をキャッチする能力が不足していると考えられる。

### 項目Ⅱ－7スクリプト

問題：男の人と女の人が話しています。女の人はどうな先生がいいと言っていますか。

男：ねえ、どんな先生だった？ 厳しいの？

女：その反対。

男：じゃあ、いいんじゃない。

女：やさしいだけの先生はだめよ。厳しくしてくれなくちゃ。

男：そう？でも、若い先生なんでしょう。

女：うん、でも私は何年も教えたことのあるベテランの先生の方がいいなあ。

男：そうかなあ。

質問：女の人とはどんな先生がいいと言っていますか。〔（ ）内は正解〕

- (1) 経験があって厳しい先生です。
- 2 経験があってやさしい先生です。
- 3 若くて厳しい先生です。
- 4 若くてやさしい先生です。

【表7】 ( )の中は正解、\*1)項目困難度、\*2)上位下位項目弁別力指数

項目Ⅱ－7	無 答 者 数	各肢選択者数				受 験 者 数	(1)	2	3	4	各選択肢 の選択率
		(1)	2	3	4						
上位群27%	0	7	6	3	14	30	0.233	0.200	0.100	0.467	
中位群46%	0	6	5	16	26	53	0.113	0.094	0.302	0.491	
下位群27%	0	2	4	11	13	30	0.067	0.133	0.367	0.433	
計	0	15	15	30	53	113	*1)0.133	0.133	0.265	0.469	
							*2)0.167	0.067	－0.270	0.033	

## ●項目Ⅱ－9

項目Ⅱ－9は絵のないもので、正答率の低かった項目である。項目困難度は0.221、上位下位項目弁別力指数は0.167である。表8項目Ⅱ－9で、各選択肢の選び方を見ると、正答2.「必要がないから止めてほしいと言っています」を選んだ者は25名で、上、中、下位群とも全選択肢を選んでおり、誤答3.「安全のために続けてほしいと言っています」を選んだ者が44名もあった。

正答者を絞ってみると、上位群8名、正答率26.7%、中位群14名、正答率26.4%、下位群3名、正答率10%。上位群でも誤答が多く、中位群との差はわずか0.3%である。

## 問題のポイント：

「偽」の情報か正しい情報かを識別する能力

「言わなくても分かるからやめてほしい」という言葉を、選択肢に「必要はないからやめてほしい」と類似表現に換えられた。この二つの類似表現については、受験者は理解していると推測されるが、問題は、紛らわしい情報、つまり、「偽」の情報から正しい情報を識別する能力が不足していると考えられる。

## 項目Ⅱ－9のスク립ト

問題：男の人と女の人が話しています。女の方は駅の放送についてどう言っていますか。

男：ねえ。日本の駅って電車が入りますとか、ドアが閉まりますとか、何でこんなに注意するんですか。

女：親切で言っているつもりだと思うけど。

男：でも、言わなくても分かるのにね。

女：うん。私も言わなくても分かるから止めてほしいって思うんだけど。

男：ずいぶんうるさいですね。

女：それに本当に聞き取りにくいし。きっと万が一事故があったら困るって気持ちがあるのかもね。

質問：女の方は駅の放送についてどう言っていますか。〔（ ）内は正解〕

- 1 親切だからいいと言っています。
- (2) 必要がないから止めてほしいと言っています。
- 3 安全のために続けてほしいと言っています。
- 4 もっと聞きやすくしてほしいと言っています。

【表8】 ( )の中は正解、\*1)項目困難度、\*2)上位下位項目弁別力指数

項目Ⅱ－9	無 答 者 数	各肢選択者数				受 験 者 数					
		1	(2)	3	4		1	(2)	3	4	
上位群27%	0	1	8	10	11	30	0.033	0.267	0.333	0.367	各選択肢 の選択率
中位群46%	0	9	14	21	9	53	0.170	0.264	0.396	0.170	
下位群27%	0	9	3	13	5	30	0.300	0.100	0.433	0.167	
計	0	19	25	44	25	113	0.168	*1)0.221	0.389	0.221	
							－0.267	*2)0.167	－0.100	0.200	

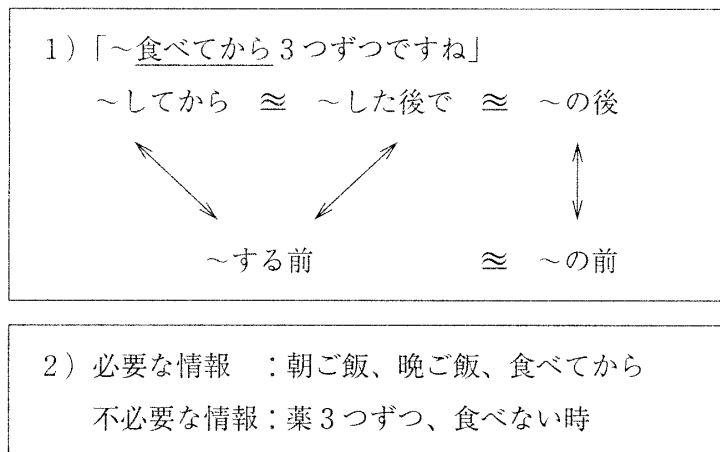
## ●項目Ⅱ－3

項目Ⅱ－3は絵のないもので、男女二人の会話は「です・ます体」で行なわれ、言葉づかいが丁寧で、やさしい。日本語学習歴約一年の受験者には、文法の面においても、語彙の面においても既習したものと推測される。項目困難度は0.478、表9項目Ⅱ－3で、各選択肢の選択状況を見ると、正答2。「1日に2回食事の後で飲みます」を選択したのは54名で、中、下位群では、ほぼ均等にほかの選択肢を選んでいる。

上位下位項目弁別力指数は0.433で、正答者を絞って見ていくと、上位群30名のうち22名が正答し、正答率73%、中位群53名のうち23名が正答し、正答率43.3%、下位群30名のうち9名が正答し、正答率30%である。

## 問題のポイント：

【図1】



問題のポイントは【図1】のように、「～てから」の類似表現及びその反対意味の類似表現についての理解は定着しているかどうかということ、必要となる情報をキャッチする能力があるかどうかの2点にある。誤答の選択肢のうち、

1. 「1日に2回食事の前に飲みます」を選んだ23名は、1)の「～てから」の類似表現及びその反対意味の類似表現についての理解は定着していない。
3. 「1日に3回食事の前に飲みます」を選んだ12名は、1)の語彙についての理解も定着していないし、2)の必要となる情報キャッチ能力も不足。
4. 「1日に3回食事の後で飲みます」を選んだ24名は、2)の必要となる情報キャッチ能力が不足。

といった可能性を示唆している。

## 項目Ⅱ－3スクリプト

問題：男の人が病院で看護婦さんと話しています。男の人は薬を毎日どのように飲めばいいですか。

女：じゃあ、この薬を朝ご飯と晩ご飯の時に3つずつ飲んでください。

男：はい、食べてから 3つずつですね。

女：ええ、食べない時は止めてください。

男：はい、分かりました。

質問：男の人は薬を毎日どのように飲めばいいですか。[( ) 内は正解]

- 1 1日に2回食事の前に飲みます。
- (2) 1日に2回食事の後で飲みます。
- 3 1日に3回食事の前に飲みます。
- 4 1日に3回食事の後で飲みます。



【表 9】

( ) の中は正解、\*1)項目困難度、\*2)上位下位項目弁別力指数

項目Ⅱ－3	無 答 者 数	各肢選択者数				受 験 者 数	1	(2)	3	4	各選択肢 の選択率
		1	(2)	3	4		1	(2)	3	4	
上位群27%	0	6	22	1	1	30	0.200	0.733	0.033	0.033	各選択肢 の選択率
中位群46%	0	8	23	8	14	53	0.151	0.434	0.151	0.264	
下位群27%	0	9	9	3	9	30	0.300	0.300	0.100	0.300	
計	0	23	54	12	24	113	0.204	*1)0.478	0.106	0.212	
							－0.100	*2)0.433	－0.070	－0.267	

### ●項目Ⅱ－8

項目Ⅱ－8は絵のないもので、上位下位項目弁別力指数0.333は極端に低い訳でもないが、項目困難度0.336はやはり低いと見るべきだろう。

表10項目Ⅱ－8で、各選択肢の選び方を見ると、正答1.「バス」を選んだ者は38名で、誤答4.「電車」を選んだ者が41名。上、中、下位群では、全選択肢を選んでいる。

男女二人がこの後に乗る乗り物について言い合っている場面で、二人の会話は常体形式である。会話に出た乗り物は全部で4種、出現順は「バス、タクシー、電車、地下鉄」、また、「バス停」や「駅」などの語彙の面においても、文法の面においても受験者は受験当時全部既習のものである。正答率が低かった原因は、情報をキャッチする能力が不足している上、必要となる情報が飛び散って、把握しにくいと考えられる。

### 問題のポイント：

1)「ここで待とう」

↓

「ここで待ちましょう」

2) 必要となる情報をキャッチする能力

この後に乗る乗り物について男女二人はお互いに言い合っており、新しい情報が常に変更され、一箇所引っ掛かったら、ついていけなくなる。また、

女：バス停はどこ？

男：ここ。

つまり、「ここ＝バス停」という情報を聞き逃すと、最後の「ここで待とう」という言葉の意味は分かっている、何を待つかわからなくなる。その上、聞きなれていないくだけた話し方なので、パニック状態に陥ってしまったのではないかと推測される。

## 項目Ⅱ－8スクリプト

問題：男の人と女の人が話しています。2人はこの後何に乗りますか。

男：さて、ここからは歩くかなあ。

女：近いの？

男：うん。40分ぐらいかなあ。

女：へえ、やだあ。歩くのは。タクシーがいい。

男：ここはタクシーなんて来ないよ。じゃあ、バスだ。

女：バス停はどこ？

男：ここ。あれ、バス随分待つよ。

女：じゃあ、電車は？

男：電車じゃなく、地下鉄だよ。駅はここから歩いて10分。

女：もう、やだ。やだ。歩くのは、やだ。

男：分かったよ。じゃあ、ここで待とう。

質問：2人はこの後何に乗りますか。〔（ ）内は正解〕

- (1) バスです
- 2 タクシーです
- 3 地下鉄です
- 4 電車です

【表10】 ( )の中は正解、\*1)項目困難度、\*2)上位下位項目弁別力指数

項目Ⅱ－8	無 答 者 数	各肢選択者数				受 験 者 数	(1)	2	3	4	各選択肢 の選択率
		(1)	2	3	4						
上位群27%	0	15	2	2	11	30	0.500	0.067	0.067	0.367	
中位群46%	0	18	11	7	17	53	0.340	0.208	0.132	0.321	
下位群27%	0	5	6	6	13	30	0.167	0.200	0.200	0.433	
計	0	38	19	15	41	113	*1)0.336	0.168	0.133	0.363	
							*2)0.333	－0.130	－0.130	－0.070	

## ●項目Ⅱ－10

項目Ⅱ－10は絵のないもので、男女二人の会話のやり取りは四回行なわれ、話しの内容は日曜日のスケジュールの確認と待ち合わせの場所について、会話は「だ体」で行なわれた。

男：じゃあ、日曜日、駅で。

女：ええ、駅の入り口でいいわよね。

男：うーん、入り口は込んでいるから、8時に出る電車の中で。

女：じゃあ、一番前で。

のように、助詞で終わっている文が多く、わりあい、やさしいものである。日本語学習歴約一年の受験者グループには、文法の面においても、語彙の面においても既習したものと推測される。

項目困難度は0.416、表11項目Ⅱ－10で、各選択肢の選び方を見ると、正答3.「電車の中」を選択した人は47名、誤答4.「バスの所」を選んだ者が33名。上、中、下位群では、全選択肢を選んでいる。

上位下位項目弁別力指数は0.433で、正答者を絞って見ていくと、上位群30名のうち19名が正答し、正答率63%、中位群53名のうち22名が正答し、正答率41.5%、下位群30名のうち6名が正答し、正答率20%である。

### 問題のポイント：

#### 1) 連語復元

項目Ⅱ－10の特性は、助詞で終わっている文が多かった。それら省略された動詞（または動詞以外のもの）を復元すると、次のようになる。

男：じゃあ、日曜日、駅で（会おう）。

女：ええ、駅の入り口でいいわよね。

男：うーん、入り口は込んでいるから、8時に出る電車の中で（会おう）。

女：じゃあ、一番前で（会おう）。

男：うん、じゃあ。切符は別々に買おうね。

女：ええ、山下駅まで（の切符を買っていい）よね。

男：うん。駅からはバスで行くからね。

女：分かったわ。じゃあ、日曜日。

受験者はこれら連語を復元する能力が不足している。

#### 2) 沢山の情報から必要となる情報をキャッチする能力

男女2人の会話内容は日曜日のスケジュールの確認ということで、中には、時間、場所、行動方法など、沢山の情報が含まれている。必要となる情報は場所だけとなる。

時 間：日曜日、8時に出る電車

場 所：駅、駅の入口、電車の中、（電車の）一番前（の車両）、山下駅

行動方法：切符は別々に買う、山下駅についてからバスで行く

#### 3) 「偽」の情報から正しい情報を識別する能力

「2人はどこで会いますか」という質問だが、会話に出た場所は全部で5箇所、出現順は「駅、駅の入口、電車の中、（電車の）一番前（の車両）、山下駅」と、選択肢に「真」の情報「駅の入口、電車の中」と、「偽」の情報「切符売り場、バスのところ」とそれぞれ2つある。受験者は連語を復元する能力が不足していることで、「偽」の情報か「真」の情報かを識別する能力も弱まって、結果として、情報をキャッチすることが苦手だという可能性を示唆していると考えられる。

## 項目Ⅱ－10スクリプト

問題：男の人と女の人が話しています。2人はどこで会いますか。

男：じゃあ、日曜日、駅で。

女：ええ、駅の入り口でいいわよね。

男：うーん、入り口は込んでいるから、8時に出る電車の中で。

女：じゃあ、一番前で。

男：うん、じゃあ。切符は別々に買おうね。

女：ええ、山下駅までよね。

男：うん。駅からはバスで行くからね。

女：分かったわ。じゃあ、日曜日。

質問：2人はどこで会いますか。〔（ ）内は正解〕

1. 駅の入り口です。
2. 切符売り場です。
- (3) 電車の中です。
4. バスの所です。

【表11】 ( )の中は正解、\*1)項目困難度、\*2)上位下位項目弁別力指数

項目Ⅱ－10	無 答 者 数	各肢選択者数				受 験 者 数	(1) 2 3 4				
		1	2	(3)	4		(1)	2	3	4	
上位群27%	0	1	4	19	6	30	0.033	0.133	0.633	0.200	各選択肢 の選択率
中位群46%	0	6	8	22	17	53	0.113	0.151	0.415	0.321	
下位群27%	0	8	6	6	10	30	0.267	0.200	0.200	0.333	
計	0	15	18	47	33	113	0.133	0.159	*1)0.416	0.292	
							-0.233	-0.067	*2)0.433	-0.133	

## 5. まとめ

以上、中国広東外語外貿大学1999年9月に入学した113名のTest－98聴解3の項目分析、解答パターン分析を行なった。113名は語学専攻として日本語を1年間履修した時点に、日本語聴解能力についての弱点をまとめると次のようである。

【表12】

中国広東外語外貿大学1999年9月に入学した受験者グループ			
	弱点	例	改善策
言語内知識	常体が苦手 くだけた言い方が苦手	倒れちゃいそう	これから、一年の精読の授業で、重点的に教え、徹底する必要がある
	感覚・感情語彙、所謂人称制限のある語彙が苦手	寒い、うれしい、困る等	
	連語、または、動詞との共起成分（助詞や名詞）の復元能力が不足	駅で（会おう） （ここで）待とう （バスを）待とう	
	数字、特に時間を表わす表現が苦手。 （試験の内容には、電話番号、ページ数、時間数字がある）		
リスニングの技能	必要となる情報をキャッチする能力が不足	多くの「真」の情報から必要となる情報をキャッチする能力 「真」の情報か「偽」の情報か識別する能力	大学二年に入ってからヒヤリングの授業で、重点的に訓練する
言語外知識	社会生活一般、生活の知恵、対象国に関する背景知識等が不足		学年別に、授業で補充していくことを取り込んだ授業計画を検討する必要がある

## 注釈

- 1) 日本国際交流基金・財団法人日本国際教育協会主催の外国人「日本語能力試験」1級から4級の4つのレベルの認定基準は、次のとおりである。1級—高度の文法・漢字2000字程度・語彙10000語程度を習得し、社会生活をする上で必要であるとともに、大学における学習・研究の基礎としても役立つような、総合的な日本語能力（日本語を900時間程度学習したレベル）。2級—やや高度の文法・漢字1000字程度・語彙6000語程度を習得し、一般的なことについて、会話ができ、読み書きできる能力（日本語を600時間程度学習し、中級日本語コース終了したレベル）。3級—基礎的な文法・漢字300字程度・語彙1500語程度を習得し、日常生活に役立つ会話ができ、簡単な文書が読み書きできる能力（日本語を300時間程度学習し、初級日本語コース終了したレベル）。4級—初歩的な文法・漢字100字程度・語彙800語程度を習得し、簡単な会話ができ、平易な文、または短い文章が読み書きできる能力（日本語を150時間程度学習し、初級日本語コース終了したレベル）。
- 2) Test-98聴解3の全25項目のうち、一番高い成績は20問正解、一番低い成績は4問正解、平均正答率は55.7%。例の2人は上位群に属され、一人は一番高い成績（20問正解者4人）のうちの一人、もう一人は二番目高い成績（19問正解者6人）のうちの一人である。
- 3) 語学専攻では「精読」の授業は音声、語彙、文法など語学的な基礎知識及び対象国の文化的な背景知識を総合的に教授する科目であり、核心科目と言える程度である。
- 4) 項目困難度（Item difficulty : DIFF）はテスト項目がどのくらい難しかったかを検討するもので、正答率、通過率とも呼ばれる。0.000+1.000の間の数値となり、1.000に近ければ近いほど易しい項目、0.000に近ければ近いほど難しい項目だと解釈することができる。

- 5) 項目弁別力指数 (Item discrimination power index: DISC) は、あるテスト項目が、語学能力の高い受験者を弁別、或いは識別することができたかどうかを検討するもので、-1.000から+1.000の範囲で示され、+1.000に近くなればなるほど弁別力は高いと判断される。能力の高い受験者よりも、能力の低い受験者の方がより多く正解したような項目の場合は、負の数値が算出される。本稿の項目弁別力指数の算出は、上位群選択人数と下位群選択人数の差である。項目弁別力がどのくらいあれば適切かということに関しては、諸説があるが、項目困難度0.200~0.800、かつ、項目弁別力指数は0.400以上がよい項目とする考え方が一般的である。
- 6) 中村洋一、2002、『テストで言語能力は測れるか』桐原書店 P88-89
- 7) 各選択肢の選択率の算出は、各項目の選択人数と各グループの人数の割合である。

## 参考文献

1. 石田敏子著 (1998再販)『入門日本語テスト法』大修館書店
2. 加藤清方 (1992)「日本語能力試験の聴解——テストで測られる聴解能力とは何か」通巻118号『日本語学』明治書院
3. 中村洋一著 (2002)『テストで言語能力は測れるか』桐原書店
4. ハーワード B. ライマン (Howard B. Lyman) 著・岩脇三良訳 (1967)『テストの結果と解釈』日本文化科学社
5. 肥田野直他著 (1961)『心理教育統計学』東京培風館
6. ロバート・ラード (Robert Lado) 著・門司勝他訳 (1971)『言語テスト』大修館書店

(原稿受理 2003年 9 月29日)